



7月1日現在の中山	
世帯数	1,364
人口	3,216
【問い合わせ】 中山公民館編集委員会 58-5822	

大事な居場所

こたろうの里

「こたろうの里」は中和泉中河原の空き民家を利用して、障がいを抱えた方や地域のお年寄りの日中の居場所、憩いの場所として平成24年4月に開設されました。

市内各地区から一日10人前後の人が午前9時から午後3時頃まで「こたろうの里」で過ごします。

朝のラジオ体操に始まり、雨降り以外は散歩に出かけ、咀嚼や吞み込みの訓練として「じゅげむ」などの言葉遊びをみんなで合唱します。

ほとんど暗記されているように、見学の日も元気な「じゅげむ」が部屋いっぱい響き渡っていました。

食事や皿洗い、掃除は当番を決めて交代で行います。

近くの畑では様々な作物を作っています。収穫した野菜は自分たちの食事にもなり、畑仕事は、やりがいや楽しみ、大地の恵みを感じることのできるとても良い活動となっているようです。

午後は、昼寝、ゲーム、カラオケ、畑仕事をする人など、強制はせず各々自由な時間を過ごします。

就労作業もやっています。ポスティング、マスクやコー



のれん



代表の
五郎丸 道人さん

スターなどの小物作り、農作業等分野は様々ですが、収入を得るといふ喜びもまた、やりがいとなっています。

「こたろうの里」の今後について、代表の五郎丸道人さんは、「まずは継続。続けていくことが大事。ここへ来て、仲間ができたり、コミュニケーションがとれたり、安心できたり、明日もまた来たいと思える、そういう場所を今後も作っていきたい。」と話します。

私自身、この取材をするまで中山にこういった場所があることは全く知りませんでした。気楽に、低料金で、食事ができて、自信が持てて、生き生き過ごせる、こういった場所がもっと身近に沢山できるといいなと感じました。

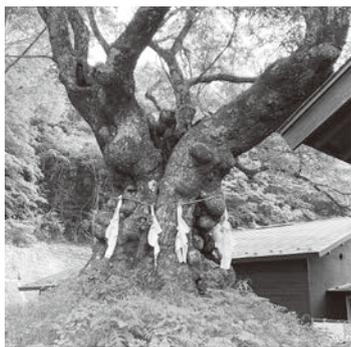


中山史跡愛護会が

視察研修に

行って来ました

6月8日(火)に中山史跡愛護会の視察研修として、群馬県嬬恋村の鬼押出し園、群馬



熊野皇大神社の御神木



鬼押出し園での集合写真

県と長野県の境である碓氷峠に位置する、軽井沢町の熊野皇大神社に行ってきました。当日は天候にも恵まれ、行程的に忙しかったものの、絶好の散策日和となりました。

中山史跡愛護会では、地区内に多く点在する歴史的遺構の適切な保存活動および活用方法を模索すべく、例年県内各所の旧所・名跡を訪れて勉強しています。

今回訪れた鬼押出し園や熊野皇大神社のように、地域資源を活かし、地区の内外より多くの人を呼び込むような仕掛けづくりにより、中山地区をより活性化させるような取り組みに繋がればと、今後も事務局では支援していきます。

名所探訪

山岸医院から東山の方へ上っていくと赤い大屋根が目印の古民家「喜源治」があります。

この喜源治の母屋（本棟づくり）は明治16年頃の建物で1階の土間を入ると囲炉裏の間や武家屋敷から移築された客間等があり、グラントピアノが置かれてありました。

2階は地域の陶芸家の高野榮太郎氏や絵画家の佐々木修氏の活動応援スペースとして陶器や絵画が数多く展示され購入することもできます。

裏手にあるギャラリー茅には着物を洋風にリメイクした浜和子さんの作品やトトワ倶楽部の無農薬野菜から作られた加工食品、チクタンスの竹製品等が展示販売されています。

表にある蔵は内装がリフォームされお洒落な談話室となっていて民泊ができるように宿泊部屋も完備されています。オープンガーデンとして登録されている庭は季節ごとの花々を見ながらの散策ができます。

喜源治を主宰されている小松弓子さんは、古民家で作品展示やミニコンサート、講演会などを開催し、地元の方の活動を知っていただき、中山を魅力ある場所となるように応援していきたいと熱く話されています。

喜源治は誰でも大歓迎ですが個人の建物ということで訪問時は必ず一声かけてほしいとのこと。

問い合わせ先

小松弓子さん
5819379



母屋2階のギャラリー



喜源治全景



蔵を改装した談話室

燕の城

我が家の玄関先は4月に入り網や防鳥テープにかまされ、少し異様な光景になりました。これこそ燕の子育てをめぐり、私と雀が5年にわたる攻防を繰り返した結果なのです。

それは4年前、燕が玄関先で営巣し、雛が誕生した時、突然多数の雀がやって来て雛を落とす挙句の果て、枯草を山の様に巣に積み上げたことから始まりました。

燕はいたたまれず何処かへ去ってしまいました。それからこの状況が毎年繰り返される事になってしま

ました。

さすがに私もこのままでは腹の虫が収まりません。最初は何をしたらものか見当も付きませんでした。次に雀と燕の特徴の違いを見つけて対策を打つことにしました。

それにしても燕はやられてもやられてもよく毎年来てくれたものです。対策は、まず玄関先の巣のある空間を網で囲い人と燕の出入口を別にしました。網を寄せて壁との間に隙間を作り、住人はそこから出入りします。

燕はU字飛行をしなければ出入りできない専用の窓を使います。それから巣の近辺から雀の中継地となるものは極力無くし、ドアノブにも透明シートのカバーを掛けました。こうして5年目の今年『燕の城』が完成しました。

3度ほど雀の攻撃が有りましたが阻止に成功し雛も誕生しました。

今年はずいぶん楽しみを見送れるかと楽しみにしていましたが、ところが、予想外です。雛誕生から5日目、予想外の敵、蛇に襲われ雛達は全滅してしまいました。まった

く迂闊でした。がっかりです。しかし、不幸中の幸い、親鳥達は無事で、まだ立ち去らず、倉庫の軒先をねぐらに、朝出かけ、夕方帰る日々を送っています。私も気を取り直し『燕の城』に蛇対策を施し、後半戦に期待をかけることにしました。

（F.O）



コロナが収束するかと思いきや、変異株が猛威を振るっている。先が見えない、暗闇のトンネルに入っている。

この1年、多くの人がステイホームして、自分と向き合いたはずだ。

今の状況では、ピンチをチャンスにといいようなく、ローガンを唱えるのでなく、今、自分がすべきことを、黙黙、淡淡とやっていくことが、大事だと思ふ。

その中で、元の生活に戻ることを期待したい。（T.K）